

# 国語

2020 年冬期講習 高校受験対策講座 [M03B]

IX EDUCATION

## 第1日

問題1 次の文章は、建築家の光嶋裕介が書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

何かを生み出すときのスタンスは、なにも建築を設計する時だけのことでなく、ドローイングを描いている時も、同じように思います。僕が今までの人生で見えてきたありとあらゆるビジュアル情報が自分の中にストックされていて、そこから無意識的に、選択しながら描かれているように思うことがあるのです。

文章を書いている時も、そう。自分自身で書いているのに、僕が今まで読んできたいろいろな本の影響が入ってきているように感じます。先人たちによって心を揺さぶられた言葉が、自分の中の記憶の奥底に染み込んでいて、それらが変容しながら再度生み出されていくような感覚。逆に言ったら、①まったくのゼロからの創造などありえない、②と言っても過言ではありません。

文章や絵は一人で行う孤独な作業。ただ、一人でやる行為であったとしても、それは、自分と対話しているのです。

そこから多くの着想が立ち上がり、ドローイングとなつて、あるいは文章となつて、表れます。一人だからこそ生まれ得るのです。自分の中にあつたものが、熟成し、咀嚼されて形を変えてゆつくり③表れるのです。

さまざまな経験を通して、私たちは「自由の地図」を描き続けていると思うのです。

知識として手に入れたものも、体験として感動したことも含めて、自分という人間をつくりあげているありとあらゆるものが、この地図に描き込まれていく。若い時は、自我や人格が不透明で、地図の情報量が少なかったこともあり、ものごとの的確な判断ができなかったり、ことの本質を見抜くことが困難だったりします。

しかし、本を読んで感銘を受けた思想や、美術館で心を鷲掴みにされた美しい絵画との出会い、時間を忘れるようにして聴き込んだ音楽、あるいは友達とのちよつとした会話から得た着想や、日常の何気ない風景など、日々体験したものがぎつしりとこの地図に描かれていくのです。すると、いかに多くの他人によって今の自分があるか、ということに気付かされます。

要するに、④自分の中に緻密な地図をつくるということは、多くの他人からバトンを受け取っている事の自覚が⑤生まれるということだと思つています。必要な情報が必要な情報とリンクして、総体としての自分が見えてくるようになります。

はじめて訪れる街のことを想像してみてください。きっと知らないことばかりでしょう。しかし、地図を持って、その街を歩きながら建物の情報や街の雰囲気を集めていくと、その地図を介して街への理解がグンと深まります。そのとき、地図に書いてあるどの情報が自分にとって大切な情報であるかを嗅ぎ分ける必要があります。地図がその存在意義をもつとも発揮するのは、ある目的をもってその地図を利用するときなのです。

だから、自分の知らない世界に手を伸ばし、新しい扉を開いて、新しい自分を発見し続けるためにも、自分の地図を上書きし続ける必要があります。明確な意志をもって描いていくのです。

いま、僕が建築家としての自分の地図をマッピングしていく中で、大事にしていることのひとつに、「モザイク状である」ということがあります。

できる限り客観的な視点から、自分自身を成り立たせているものを、バラバラのモザイク状であることに目を背けないで、そのまま受け入れたいと思つています。

そのまま、ということが大事だと思うのです。自分の中にあるバラバラなものを、自分の理解する範囲だけで整理整頓してしまわないこと。今の自分では意味が回収できないものであつても、ときに矛盾することであっても、自分の地図に描かれていることを総体としてちゃんと自覚して、受け入れる。

人間だれもがそれぞれの生きた時間の分だけ、それぞれの体験が濃縮されたモザイクからできている。そのバラバラのモザイクに秘められた輝きは、唯一無二なもの。個性と言つてもいいでしょう。他人と比較することに意味などまったくありません。

ただ、そのモザイク状のものがいろんな人と接することで、変化していくことが必要だと思うのです。いろんな他者との交流で、多様な光に照らされるからです。コミュニケーションを通して自分が持っているモザイク状の地図が変わっていく。常識や先入観にとらわれていたら、地図はすぐに古くなってしまいます。自分の地図を批判的に疑いながら、更新し続けることです。

⑥自分の地図がモザイク状に変化し続けると、相手のモザイクに対しても多様な読み取り方があることを学びます。ものを観察する力と一緒に、それをしないで、自分が絶対だとか、この本にはこう書いてあつたと、思い込んでいたらすぐ限られた小さいモザイクだけになってしまい、うまくいかなくなってしまいます。

これと同様に、建築を⑦ヒョウカする時でもできるかぎりモザイク状でありたいと考えています。建築を成り立たせている要

素を単純化しないで、総体としての存在であると理解したい。建築を単純化してしまうと、極端な結論に陥りがちです。多くの要素が同居しているからこそ、健全な建築のあり方だと思おうのです。

〈2020年岡山 第3問 出典 光島裕介「建築という対話 僕はこうして家をつくる」ちくまプリマー新書〉

(注) スタンス―物事に対する立場、態度、姿勢。

ドローイング―ここでは、「建築物の構想を描いた絵」のこと。

ストック―蓄えておくこと。また、蓄えてあるもの。

咀嚼―ここでは、「物事の意味をよく考え、自分なりに理解する」こと。

マッピング―地図を作成すること。

モザイク―様々な色の意思やガラスなどの小片を組み合わせてつくった模様や絵、壁や床の装飾に使われる。

①傍線部①、②を漢字に直して楷書で書きなさい。

②「表れる」の品詞について説明した次の「Ⅰ」「Ⅱ」にそれぞれ入ることばの組み合わせとして最も適当なのは、ア

イのうちではどれですか。一つ答えなさい。

「表れる」は動詞であり、動作の対象を必要と「Ⅰ」ので、「Ⅱ」である。

ア Ⅰしない Ⅱ自動詞 ⅢⅠしない Ⅳ他動詞 ウ Ⅰする Ⅱ自動詞 エ Ⅰする Ⅳ他動詞

③「まったくの……ありえない」とあるが、このように筆者が考える理由を説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 真の創作と呼べるものは、自己との対話を通して、はじめから心の奥底に存在しているものによって着想を得た作品だけだから。

イ 何かを生み出すということは、先人たちから得てきた情報の蓄積が、無意識のうちに自分の中で再構成され表出することだから。

ウ 自分が意識せず作り上げたものでも、世の中に多くの作品が存在することで、結果的に似通ったものにならざるを得ないから。

エ 創造という営みは、人生で影響を受けてきたものを記憶の中から意図的に選択して、孤独な作業で形にしていくことであるから。

④「◎自分の中に……つくる」とあるが、これがどういうことなのかを説明した次の文の「▲」に入れるのに適当なことばを、文中から八字で書き出して答えなさい。

芸術や日常の会話などを通して得たさまざまな体験がつながっていくことで、「▲」に対する理解が深まっていくということ。

⑤「◎自分の地図が……変化し続ける」とあるが、これがどういうことかを説明した次の文の「X」「Y」に入れるのに適当なことばを、「X」は文章中から八字で抜き出して書き、「Y」は四十字以内で書きなさい。

今の自分の中では理解できないものや矛盾しているものでも、すべて自分自身を成り立たせているものとして、「X」っていくとともに、常識や先入観にとらわれることなく「Y」ということ。

⑥ この文章の構成と内容の特徴について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 冒頭に筆者の経験を述べることにより、常に他者と共同作業で作品作りをすることが重要だという主張に説得力を持たせている。

イ 接続詞を効果的に使用することにより、若い時の自分というものがどれほど不完全な存在であるかという事実を筋道立てて述べている。

ウ 知らない街を訪れる場面を読者に想像させたうえで、様々な情報が書かれた地図が街の詳しい把握には役立つという主張を展開している。

エ 自分にとっての「モザイク状の地図」の意義を述べた上で、それは他者や建築を理解する場合にも重要なものであると結論づけている。

**問題2** 次の文章は、『古今和歌集』（『古今集』）の和歌のレトリック（表現技法）について書かれた解説文である。これを読んで、①～③に答えなさい。（2020年岡山 第2問）

「掛詞」と「縁語」は、いずれも『古今集』において発達したレトリックである。

「掛詞」は、「同音異義を利用して、一つの言葉に複数（通常は二つ）の語を重ねるレトリックである」と定義することができる。具体例をみてみよう。在原業平の歌である。

唐衣着つつなれにしましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ

「唐衣」は本来中国風の衣装の意であるが、転じて衣の一部の美称となった語で、和歌の中にしばしば用いられる。「なれ」見に馴染んだ衣の糊気がとれて柔らかくなる意の「萎れ」と、人と慣れ親しむ意の「馴れ」が掛かる。「つま」には「褌（着物の端の部分）」と「妻」は「はる」には「張る（衣を洗い張りする）」と「遙々」、「きぬる」には「着ぬる」と「来ぬる」がそれぞれ掛かっている。そして掛けられた二語のうち、一方は「唐衣」にまつわる物象のことば「萎れ・褌・張る・着ぬる」もう一方は妻を思う心情表現のことば「馴れ・妻・遙々・来ぬる」であることも見えてくる。

業平の歌の中には、「唐衣・萎れ・妻・張る・着ぬる」という「唐衣」の縁にある語群が、掛詞を介してちりばめられていた。このようなレトリックを縁語という。縁語とは、「一首の歌の中の複数のことばが、文脈上のつながりとは別に、何らかの連想関係によって結びついていること、あるいは、そのような関係にある語群のこと」である。

一首の歌の中に掛詞・縁語によって持ち込まれる「X」は、必ずしも「Y」の比喻や象徴であるとはかぎらない。けれども、この歌の場合は、「唐衣」語群から、都に残してきた妻を思い浮かべてもよいのだろうかと思われる。布を染め、裁断し縫い合わせて、季節ごとの衣装を整えるのは、妻の役目であった。業平の旅装も、妻が用意してくれたのであろう。糊気のとれた衣の柔らかさは、妻のやさしさ、懐かしさともつながっているように。

（注）美称「物を美化するという言い方。

糊気→着物のしわを伸ばすために使う洗濯用の糊を含んでいる様子。

洗い張り→着物をいったんほどいて水洗いした後、板などに張って糊付けしてしわを伸ばすこと。

物象 物の姿、形。

① 「思ふ」とあるが、「おもふ」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

② 「X」、「Y」にそれぞれ入れることばの組み合わせとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア X 物象 Y 同音異義    イ X 物象 Y 心情表現    ウ X 文脈 Y 同音異義    エ X 文脈 Y 心情表現

③ 解説文を授業で学習した中学生の健助さんは、学習したことを次のようなレポートにまとめた。「I」～「IV」に入るのに適当なことばを、「I」は一字、「II」は四字、「III」は六字で、それぞれ解説文から抜き出して書き、「IV」は解説文のことばを使って十字以内で書きなさい。

【健助さんのレポート】

「在原業平の和歌に用いられている掛詞と縁語」

からころも	きつつ	なれにし	つまあれば	はるばる	きぬる	たびをしぞおもふ
	馴れ	妻	遙々	「I」ぬる		
	掛詞	萎れ	褌	張る	着ぬる	

※ のことばは「唐衣」と「II」によってつながっている語群（縁語）

【若の解釈と鑑賞】

「糊気がとれ、柔らかくなって」III 「唐衣のように慣れ親しんだ妻を、都に残してきたので、はるばるとやってきたこの旅がいっそう感慨深く思われることだ」というこの和歌は、たくさんの掛詞と縁語を組み合わせた技巧的な歌です。しかし、これらの表現技法は単なることば遊びではありません。掛詞によって歌に詠み込まれた「萎れ」「褌」「張る」「着ぬる」はすべて「唐衣」の縁語であり、その「唐衣」を着た読み手が、旅先で「IV」ことにつながっていて、和歌に込められた思いに、より深みを与えていると思います。

**問題3** 四人の中学生が、日本語に関する問題をテーマとするグループ学習で、【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをした。次の【四人の中学生の話し合い】を読んで、①～④に答えなさい。

【四人の中学生の話し合い】

孝一 昨日の新聞記事によると、カタカナ語を使用することについて、16歳以上の人の35%が「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えているようだね。これはどうしてだろう。

奈緒 カタカナ語というのは、主に外国語、外来語のことだね。【資料Ⅰ】を見ると、「X」。そこから考えると、カタカナ語だと意味がよくわからないので、カタカナ語の使用を好ましくないと感じる人がいるということなのではないかな。

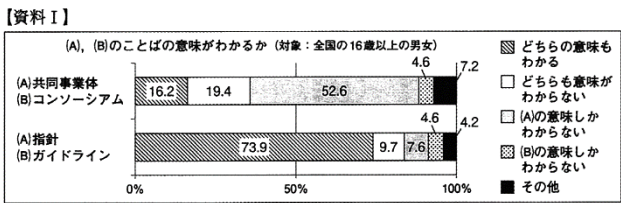
優太 うちのおじいちゃんも、この間テレビを見ながら、「最近カタカナ語が多すぎてさっぱりわからない」と言っていたよ。確かにニュースでも、何のことを言っているかわからないものが多いよね。

絵里 でも、【資料Ⅱ】を見ると、「リベンジ」を主に使う人の割合は、「雪辱」を主に使う人の割合より40%も多いよね。私も「リベンジ」の方がなじみがあるし、よく使うかな。

孝一 つまり、単純に「カタカナ語だからわかりづらい」ということではないのではないか、ということだね。

絵里 あまり身近でない、わかりにくいカタカナ語もあれば、逆にカタカナ語の方が伝わりやすいこともあるよね。カタカナ語の使用について、私たちが注意すべきことは何かあるかな。

奈緒 【資料Ⅱ】のなかでは、「芸術家」を主に使う人の割合と「アーティスト」を主に使う人の割合とは、あまり差が大きいくないように見えるけれど、【資料Ⅲ】を見ると、「Y」ということかな。

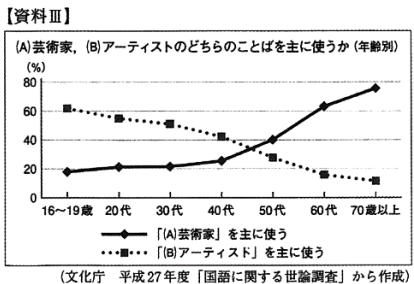


【資料Ⅱ】

(A),(B)のどちらのことばを主に使うか (対象：全国の16歳以上の男女)

	(A)を主に使う	(B)を主に使う	どちらも同じくらい使う	どちらも使わない	その他
(A)脚本 (B)シナリオ	54.5	22.3	18.7	4.3	0.2
(A)芸術家 (B)アーティスト	45.3	30.9	21.5	2.1	0.1
(A)雪辱 (B)リベンジ	21.4	61.4	11.6	5.0	0.6

(数字は%)  
(文化庁 平成27年度「国語に関する世論調査」から作成)



① 「外来語」とあるが、これに対して、もともと日本で使われていたことばのことを何というか。漢字二字で答えなさい。

② 奈緒さんの意見が論理的なものとなるために、「X」に入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 「共同事業体」の意味しかわからないという人の割合が五割を超えているのに対して、「コンソーシアム」の意味しかわからないという人の割合は5%にみえないね

イ 「共同事業体」と「コンソーシアム」のどちらの意味もわかるという人の割合と、どちらも意味がわからないという人の割合はほとんど変わらないことがわかるね

ウ 「指針」と「ガイドライン」のどちらか一方の意味しかわからないという人の割合が約12%であるのに対して、どちらの意味もわかるという人の割合は七割を超えているね

エ 「指針」と「ガイドライン」のどちらも意味がわからないという人の割合よりも、どちらか一方の意味しかわからないという人の割合の方が大きくなっているね

③ 話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものととして適当なのは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

- ア 奈緒はことばの定義を確認することで、孝一が提示した話題のわかりづらさを暗に批判している。
- イ 優太は自らの経験を具体例として示すことによって、話し合いの方向性を変える発言をしている。
- ウ 絵里は資料から読み取った情報をもとに、それまで出ていたものとは異なる見方を提示している。
- エ 絵里と優太は質問をすることで、他の人の発言の中でよく理解できなかった部分を確認している。
- オ 孝一は絵里の考えを言い換えることによって、優太の考えとの違いがわかるようにまとめている。

④ 奈緒さんの発言の「Y」に入れるのに適当な内容を、**条件**に従って六十字以上八十字以内で書きなさい。

条件

- 1 二文に分けて書き、一文目に【資料Ⅲ】からわかることを書くこと。
  - 2 二文目に、カタカナ語の使用について注意すべきことを、「だから」に続けて書くこと。
- ※資料の数値は使わなくてもよいが、数値を使う場合は左の例を参考にして表記すること。

(例)

35.0
%

## 第2日

問題1 次の文章を読んで、①～⑦に答えなさい。なお、本文を大きく四つに分け、それぞれを「I」～「IV」としている。

## 「I」

私たちヒトは、主観的な世界を共有することができます。道端に黄色いタンポポが咲いている時、そこに黄色いタンポポが咲いているのを見るのはあなただけです。同じ道歩く誰かもまた、そこに黄色いタンポポを見ることができません。黄色いタンポポはあなたの主観的な世界に描かれていると同時に、誰かの主観的な世界にも描かれています。黄色いタンポポを介して、あなたは誰かと主観的な世界を共有することができます。そのような共有することのできる主観のことを、共同主観という言葉で表します。

ヒトは他者と世界を共有する動物です。ですが、他の生き物とヒトとは、どこまで世界を共有できるものなのでしょうか。確かにそれぞれの生き物はバラバラに世界を描いていて、それらを完全に理解し合うことは不可能です。けれど、何も共有し合えないかという点、そんなことはないはずですよ。

私たちヒトには、<sup>①</sup>言葉という道具があります。「黄色」という言葉が多くの人の間で通じ、大きな齟齬も生じ<sup>②</sup>ないのは、「黄色」という概念について一定の理解があるからです。それが「黄色いタンポポ」とあるということは、誰もが共有できることです。

## 「II」

もしこれが、他の生き物に拡張されたらどうなるでしょうか。

アレックスと名付けられたオウム(オウムの一種)は、ヒトと言葉を介したコミュニケーションができた鳥として有名です。普通のオウムは言葉としてではなく、音としてヒトのしゃべる言葉を真似るのですが、アレックスは違います。<sup>③</sup>一つひとつの言葉の意味を理解した上で、豊富な語彙を持ち、物の数や色や素材を区別し、あるいはカテゴライズし、自分の気持ちを言葉で伝えたりすることもできました。

アレックスとヒトは、互いの主観的に描いている世界を相互に交流することができたのです。アレックスはヒトの言葉を使うことができたのです。アレックスはヒトの言葉を使うことができたのです。アレックスはヒトの言葉を使うことができる、ヒト以外では数少ない生き物でした。

反対に、ヒトのほうが動物の側に寄り添って、彼らのポキャブラリーを共有することもできるのかもしれない。

フリッシュはミツバチの「8の字ダンス」と呼ばれる独特な行動を通して、彼らが仲間在花の咲いている場所などの位置情報を伝達しているという発見をしました。それは、ミツバチの「言葉」をヒトが理解した数少ない事例の一つです。

私たちはきつと、すでに他の生き物たちの描く世界を、少しずつ共有し始めています。

## 「III」

どんなに他の生き物と共有できる世界を広げることができたとしても、ヒトはやはり他の生き物にはなりません。

ヒトにできるのは、彼らと世界を共有し、イメージすることです。ただし、それは常に誤解する危険を伴うものでもありません。

誤解しながらも生き物の暮らす世界に丁寧に接近しようと試みることで、その生き物の持つ能力は、次第に<sup>④</sup>フカク理解することができるようになります。

大切なことは、その生き物の暮らす世界の内側から、その生き物を理解しようと試みることはないでしょうか。

<sup>⑤</sup>しばしばヒトは他の生き物を擬人化して理解しようしますが、擬人化には様々な危険があります。本来はヒトとはまったく異なる原理で行動する生き物を擬人化してしまうことは、やはりその生き物の暮らしてきた文脈を無視するものです。

一方で、少しも擬人化することなく、他の生き物の世界を共有することもまた<sup>⑥</sup>コンナンです。どんな生き物の心も見ることができません。ですが、確かに存在するものでもあります。擬人化をすべて否定することは、そんな心の存在を無視することにつながります。

私たちが一般に「他人の立場になって物を考える」ように、わから<sup>⑦</sup>ない部分については、差し当たり擬人化して、相手を理解していくことも大切です。

そこに誤りがあるかもしれないことを自覚しながら、それでもイメージし続けていくこと。それが、他者の描く世界を共有する唯一の手段なのかもしれません。

## 「IV」

私たちヒトは、他の生き物の描く世界を知りません。他の生き物もまた、ヒトの描く世界を知りません。でも、ヒトの描いている世界は、知らず知らずのうちに、他の生き物の描く世界とつながっています。

ヒトは自分の描く世界がすべてだと考えがちです。でも、すべての生き物はそれぞれに独自の世界を描いています。

人間の強みは、そんな異世界の存在を他の生き物を通して知ることができること。道具を使ってそこに迫れること。イメージを膨らませられること。つまりは、他者への理解、そして尊重ができるのがヒトの強みです。

多様な世界の存在を知り、感動を重ねられることが、他の生き物と共存する素晴らしさではないでしょうか。私たちの身近にそんな別世界を持つ生き物たちが、今も暮らしているのです。

生き物たちに教えてもらわなければならないことは、まだまだたくさんあります。多様な生き物たちの一つひとつの世界を尊重することは、私たち<sup>⑥</sup>ヒトに課せられた大事な使命といえるでしょう。

生き物たちがそれぞれに自分の世界を描き、ヒトと共に暮らしているということ。それを知るだけで、なんだか世界が彩り豊かになったように思いませんか。

(注) 齟齬―くいちがひ。

カテゴライズ―分類する。

ボキャブラリー―ことば。語彙。

フリッシューオーストリアの行動行動学者。

〈2019年岡山 第2問 野島智司「ヒトの見える世界 蝶の見える世界」〉

① 傍線部③、④を漢字に直して楷書で書きなさい。

② の部分A～Dの「ない」のうち、他の三つと品詞が異なるものはどれですか。一つ答えなさい。

③ 「<sup>⑤</sup>言葉という道具」とあるが、言葉によってヒトはどのようなことが可能になると筆者は考えているか。これについて説明した次の「<sup>④</sup>」に入れるのに適切なことばを、文章中から四字で抜き出して書きなさい。

ある概念について一定の理解が得られ、他者との「<sup>③</sup>」をもつことが可能になる。

④ 「<sup>⑥</sup>一つひとつ……こともできました」とあるが、これがどのようなことか具体例として用いられているかについて説明した次の文の「<sup>④</sup>」に入れるのに適切なことばを、文章中から十五字で抜き出して書きなさい。

ヒトと他の生き物との間に「<sup>④</sup>」が成立するということ。

⑤ 「<sup>⑤</sup>しばしばヒトは……理解しようとしません」とあるが、生き物を擬人化して理解することに対する筆者の考えを説明した次の文の「X」「Y」に入れるのに適切なことばを、「X」は三十字以内、「Y」は二十字以内でそれぞれ書きなさい。

他の生き物を擬人化することには、「X」という危険があるが、それを意識しながら、「Y」して理解相とすることが大切だと考えている。

⑥ 「<sup>⑥</sup>ヒトに課せられた大事な使命」とあるが、これについて説明したものとして最も適当なのは、A～Eのうちではどれですか。一つ答えなさい。

A ヒトは、豊かな想像力を生かし、他の生き物の現状を考慮して貴重な生き物の絶滅に歯止めをかけ、その多様性を保つ必要がある。

I ヒトは、他者を理解する能力を生かし、他の生き物の多様な世界の存在を知り、それらを価値あるものとして重んじる必要がある。

ウ ヒトは、道具を使う能力を生かし、生き物それぞれの暮らし方を理解して、生き物にとって住みやすい世界を構築する必要がある。

E ヒトは、他者を客観視する能力を生かし、描く世界が互いに異なっている生き物が争うことのないよう、調整していく必要がある。

⑦ この文章の構成と内容の特徴について説明したものとして最も適当なのは、A～Eのうちではどれですか。一つ答えなさい。

A 「I」は、「IV」の結論に向け、ヒトが自分たちの主観的な世界の中でしか生きられないという問題提起をしている。

I 「II」は、「I」とは対照的な内容を述べることで、ヒトが他の生き物を捉える視点が多様であることを指摘している。

ウ 「III」は、「II」までの内容を受け、ヒトが他の生き物を理解しようとする際に用いる手段について話題を広げている。

E 「IV」は、「III」までに述べてきた事例を否定することによって、人間が本来果たすべき使命について結論付けている。



**問題2** 次の文章は庭の作り方を記した『作庭記』について、その一説を引用しつつ書かれた解説文である。これを読んで、①～④に答えなさい。

作者とされる橘敏綱は、すばらしい山荘を持ち、頻繁に歌会などを催していました。冒頭「意思を立てん事」の一部を引用しましょう。

国々の名所を思ひめぐらして、面白き所々を<sup>⑤</sup>我がものになして、大姿をその所になずらえて、<sup>⑥</sup>やはらげ立つべきなり。(広く諸国の名所に思いを馳せ、その土地の特徴や美点を十分理解したうえで、かつ、ありのままの自然をそのまま写すのではなく、その土地に似せて、庭園にふさわしいように、和らげて、石立てすべきである。)

庭園の石立ては、自然をそのまま写すのではなく、土地の特性をよく理解し、まず自分なりに解釈しなさいと教えています。ここで注目すべきは、「やはらげ立つ」ということばです。「やはらぐ」とは、荒削りの自然を人間社会にあてはめること、「自然」を「文化」へと変容させる作用を意味します。自然を人間社会になじむような文化へと変容させるという点で、和歌の見立てと共通しています。それぞれの土地の最も趣向ある風景を定め、しかもそれをそのまま写すのではなく、人間社会に調和するように再現するという意味で、庭園と和歌は同一方向を志向しているのではないのでしょうか。自然そのものの写実ではなく、人間社会の枠組みに合う「文化」へと変質した「自然」が求められているのです。

多くの歌人たちが寄り集まって歌を詠んだという敏綱の山荘には、意図的に作られた風景、自然が存在していました。いかにも本物に見せかけた、趣向を凝らした主人の意図を受けて、居合わせた人々は、歌を詠むという行為によって応じようとしたでしょう。贋物とわかっていながら、<sup>⑦</sup>一種の演技をもって歌を詠んだのです。日本の古典和歌における自然は、このように人間社会に同化された自然、作られた自然であったのです。

〈2019年岡山 第3問 谷知子「古典のすすめ」KADOKAWA〉

① 「<sup>⑥</sup>やはらげ」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

② 「<sup>⑧</sup>我がものになして」とあるが、これがどういうことかを説明した次の文の「」に入れるのに適切なことばを、解説文から七字で抜き出して書きなさい。

諸国の名所の特徴や美点を「」するということ。

③ 「<sup>⑨</sup>一種の演技でもって歌を詠んだ」とあるが、これを説明したものととして最も適当なのは、**A**～**E**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

- A** 庭の風景を、自分の好みに合うように想像して歌を詠んだ。
- I** 完成度の低い庭だが、主人に遠慮して写実的な歌を詠んだ。
- ウ** 贋物の庭のつまらなさを隠すように、大げさな歌を詠んだ。
- E** 主人の意図を理解して、庭の風景を本物として歌を詠んだ。

④ 「庭園と和歌は同一方向を志向している」とあるが、これについて素性法師の和歌を例に挙げながら説明した次の文の「X」、「Y」に入れるのに適切なことばを、「X」は解説文から三字で抜き出して書き、「Y」は解説文のことばを使って十字以内で書きなさい。

見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける 素性法師

この和歌は、見わたす限り、柳や桜に途が、色鮮やかな春の都の風景を、まるで豪華な錦(金や銀の糸で織った美しい模様の高価な絹織物)のようだという「X」を用いて表現している。これと同様に庭園は、自然を、そのままの写実ではなく「Y」として再現する者であり、この点で庭園と和歌は同一方向を志向している。

## 問題3

佳歩さんは、「身近にある文字やことは調べよう」という課題について、地域の公民館にかかっている額の文字とことばに関心を持ち、調べて発表した。次の【果歩さんの発表】と、発表に対する【健一さんの質問】を読んで、①～④に答えなさい。(2019年岡山 第4問)

## 【果歩さんの発表】

公民館には、このような額が掛かっています。「和をもって貴しと為す」と<sup>⑥</sup>行書で書かれています。このことばは、<sup>⑥</sup>有名な聖徳太子の十七条の憲法の一節で、「他人と仲良くすることは何よりも大切なことだ」という意味です。公民館の館長さんにお話しをうかがうと、この「和」というのは、「和して同ぜず」という「論語」のことばにもあるように、単に他人の意見に同調することではないそうです。違う意見の人どうしが仲良くしていくことが大切だということを教えていることばだと思います。

## 以和為貴

## 【健一さんの質問】

「和」は「仲良くする」という意味で、しかも「同調する」とは違う、と佳歩さんは説明していましたが、それはどういうことですか。「和」は「同」と、どう違うのですか。

- ① 「<sup>①</sup>行書で書かれています」とあるが、漢字を行書で書いたときの特徴を、楷書で書いたときと比較して説明したものと適當なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。
- ア** 文字によっては、筆脈が点画の連続として現れることがある。
- イ** 全体的に丸みがなく、直線的な点画で構成される傾向がある。
- ウ** 早く整えて文字を書くため、点画の省略が生じる場合がある。
- エ** 点画が変化することがあっても、筆順が変化することはない。

- ② 「<sup>⑥</sup>有名な聖徳太子の十七条の憲法の一節」とあるが、佳歩さんはこの部分で、「以和為貴」ということば自体が有名だということを伝えようとしている。佳歩さんの伝えたいことが正確に伝わるように、「有名な」の位置を入れ替えてこの部分全体を書きなさい。

- ③ 健一さんが質問をした意図として最も適當なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア** 聞き逃した内容について、もう一度確認しようとしている。
- イ** 発表内容の誤りについて指摘し、訂正を促そうとしている。
- ウ** 話題を変え、発表者の個人的意見を引き出そうとしている。
- エ** 発表を聞き、生じた疑問点について解決しようとしている。

- ④ 健一さんから出された質問に対する答えとして、「和」とはどういうことかを、**条件**に従って八十字以上百字以内で説明しなさい。

- 条件** 1 一文目に、資料I～IIIを踏まえて、「同」との違いがわかるように、【「和」というのは、】という書き出しに続けて説明すること。
- 2 二文目以降に、あなたが考える具体例(見聞きしたことや体験したことなど)を上げ、「例えば」に続けて書くこと。

## 資料I 【「論語」の解説文】

子曰く、君子は和して動ぜず。小人は同じて和せず、と。

孔子が言うことには、「君子は、人々と協調するが、いいかげんに妥協することはない。(それに反して) 小人は、すぐに他人に同調してしまっ、本当に協調することはできない」と。

〈出典 田辺井文雄「漢文塾―漢字文化の魅力」〉

(注) 君子―人格が立派な人 小人―人徳の無い人

## 資料II 【漢和辞典の記述の一部】

「和」―①仲良くなる。②まとまった状態。調和する。

「同」―①ひとつになる。一致する。②主体性なく合わせる。

## 資料III 【国語辞典の記述の一部】

「同調」―ほかの人の意見や行動などに、調子を合わせること。

「協調」―考え方の違うものどうしが協力し、うまくまとめること。

## 第3日

問題1 次の文章を読んで、①～⑦に答えなさい。

ポードリヤールが指摘した重要な点は、「必要なもの」の変化の⑥メカニズムが大いに機能するようになると、「人は決して満足しなくなる」ということです。本来ならば、不便な状態を解消するために物を手に入れて、「便利になってよかったなあ」となって「メデタシ、メデタシ」となるはずだったのに、「あれも必要だ」、「もっと新しいものが欲しい」と常に思わされることになり、⑤欲しかったものを手に入れてもちつとも満足できない、という状態が現れます。こうした状態を、ポードリヤールは「新しい疎外」と呼びました。物が足りないことによる不幸から脱出するために、物があふれる社会を作ったのに、かえってそのことによって、物を手に入れても少しも満足できない。次々と新しいものを追い求めるよう欲望が煽られることで、常に欠乏を感じるような状態が作られてしまった。これは、新しい不幸ではないか、と。

さらにポードリヤールは、「物の消費から意味の消費へ」という指摘もしています。それはどういうことなのか。不便や不快を解消するために物を手に入れたいという欲望には限度があります。それゆえ企業は、限度を突破するために、広告⑦センリヤクなどを通じて、欲望を煽り立てるわけですが、その際には、「これが必要だから」というアピールだけでは十分ではなくなってくるので、「これがカッコいいから」ということ、言い換えれば、「あなた自身がその物を通じて満足することよりも」他人から「X」の眼差しを向けられることで満足する」であろうことをアピールするようになります。こうして、人々の物に対する欲望は、「ないと困る」から「あれば便利・快適だ」を通じて、「あるとカッコいい」物を求めるように変化していきま

す。この変化は重大です。例えば、物を食べることを考えてみましょう。何も食わずに生きていくことは絶対にできませんから、食事は絶対に必要、「ないと困り」ます。どんなに不味い物でも栄養さえ摂れば生きてはいけますが、多くの人はできれば美味しい物を食べたいと考えます。「美味しい」とは「快さ」の一種ですから、美味しい物は「あれば快適」です。ここまでは「物に対する欲望」であると言えますが、「メディアで話題になっているあのレストランに行きたい」となると話が変わってきます。美味しい物はいくらでもあるわけでも食べてもよいわけですが、「あの有名なお洒落な店で食事をしたんだよ」と周囲に言いたいために食事をするならば、これは「物に対する欲望」に基づいて行動しているというよりも、⑧周囲から「自分はこう見られたい」という欲望を動機として行動していることとなります。つまりここで、欲望の向かう対象が「物そのもの」ではなく、物に付随する「意味」や「記号」に変化しているのです。

大事なのは、物を食べれば、お腹が一杯になって（＝食欲が満たされて）欲望は消滅しますが、「意味」はいくら食べてもお腹が一杯にならないということです。メディアが着目する「お洒落な食べ物」や「お洒落なお店」は、次から次へと現れていきますから、いくら頑張ってもそれを追いかけても、満足することはありません。このように、物を消費する目的が物そのものから満足⑨エることから、それに付随する「意味を消費する」ことへと変わったとき、どれほど消費してもちつとも満足できないという不幸な構造が完成するのだ、とポードリヤールは指摘しているのであり、そうした構造が確立した社会を「消費社会」と呼んでいるのです。

しかも、人々の消費への欲望は景気の浮沈を握っています。みんなが「もう別に要らないよ」という状態になってしまったら、つくった物が全然売れなくなってしまう、極端な場合、⑩経済が崩壊してしまうのです。ですから、物をどれだけ手に入れても決して満足できないような不幸な状態に人々が置かれることによって経済全体が回る仕組みのなかに、私たちは現実にかかっているということです。

〈2017年岡山 第4問 出典 白井聡「消費社会とは何か―『お買い物』の論理を越えて」

(注) ポードリヤール―フランスの社会学者。

① 傍線部③、⑥を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「⑧メカニズム」の意味として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 欲望    イ 眼差し    ウ 対象    エ 仕組み

③ 「⑥欲しかった物を……という状態」と同じ意味の表現を、文章中から十三字で抜き出して書きなさい。

④ 「X」に入れるのに最も適当なことばは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 憐憫    イ 感謝    ウ 羨望    エ 軽蔑

- ⑤ 「④周囲から……している」とあるが、この具体例として適当でないのは、ア〜エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
- ア クラスで花柄の小物が流行しているので、容量は機にせず、ピンクの華やかな花の柄が付いた筆箱を購入する。
- イ 有名百貨店の袋に入れて高級感を出したかったので、母の誕生日プレゼントを、その百貨店に行って購入する。
- ウ 丈夫で形も気に入っていた愛用のバッグに穴が開いたので、同じブランドの、よく似た形のバッグを購入する。
- エ 人気芸能人が新ブランドのTシャツを着ている姿をテレビで見たので、通信販売を利用して、同じものを購入する。

⑥ 「④経済が崩壊してしまう」とあるが、この部分について説明した次の文の「        」に入れるのに適当なことを、文章中のことばを使って三十字以内で書きなさい。

「消費社会」では、「        」と、経済全体が回らなくなる。

⑦ この文章を国語の授業で学習した後、先生が「参考資料」を配布した。次の文章Ⅰは「参考資料」で、文章Ⅱはそれを読んだ三人の生徒の会話である。これらを読んで、「望ましい消費の在り方」というテーマで、あなたの考えを条件に従って八十字以上百字以内で書きなさい。

#### 条件

- 一文目には、【**私の考える望ましい消費の在り方とは、**】という書き出しに続けてあなたの考えを書くこと。
- 二文目以降に、あなたの考えを支える具体例（見たり聞いたりしたことや体験したことなど）を挙げること。

#### 文章Ⅰ「参考資料」

いちばん見たかったのはアテネに在るパルテノンです。古代ギリシャ時代に建設された神殿で、コルピュジェが「感動した」と書いていたばかりでなく、京都大学に行っていた友人に、「パルテノンとローマのパンテオンだけは見ておけ」と言われていました。教養ある人がそこまで言うのだから、見ておかなければと思ったのです。

ところが行ってみると、どこがよいのかさっぱりわからない。専門家は「円柱がすごい」「装飾がすごい」などと述べていますが、それも全然わからない。

みんなが「よい」というのだからよいのだろうけれども、自分にはわからない。そう思うと、逆に探究心が出てきました。それから始めた勉強の甲斐があつて、その後、少しずつわかってきました。と同時に、世のなかには自分の知らないことが山ほどあることもわかってきました。世界にはすごいものがたくさんある。そして人間の探求心に際限はなく、よいものをよいと理解できるようになるには時間がかかるそういつたことがわかったことが、パルテノンを訪ねたことの最大の収穫です。

（注） コルピュジェースイス生まれのフランスの建築家・画家

パンテオンーローマ市内に在る古代のローマの神殿

〈出典 安藤忠雄「15歳の寺子屋 境界を越える」〉

#### 文章Ⅱ

太郎 白井さんの文章を読んで、僕は「あるとカッコいい」や「話題の」ということばにつられて買い物をしてしまう傾向にあると気づいたよ。「反省しなくちゃ」

花子 私は「あるとカッコいい」物や話題になつて物を買うことが、悪いことだとは思わないわ。流行に敏感でありたいから、これからも話題の物にいち早く反応していきたいわ。

幸子 私は参考資料が印象に残ったわ。安藤さんは、みんなが「よい」と言っても、その「よさ」を自身が理解することを大事にしていると思うの。安藤さんの文章から、自分で判断したり選択したりすることについて考えさせられたわ。

**問題2** 中学生の正広さんは、春休みのボランティア活動で保育施設を訪れた。次の【場面1】～【場面3】における会話を読んで、①～③に答えなさい。

【場面1 園長室にて】

園長 正広さんには四歳児四人を担当してもらいます。今日は久しぶりの晴天であたたかいから、外で遊ばせてください。それから、みんなと一緒にできる遊びをして、四人全員と仲良くなってください。近くにいますので、何かあったら声をかけてくださいね。

正広 わかりました。よろしく願います。

【場面2 遊戯室にて】

正広 はじめまして。僕の名前は正広です。今日はみんなと一緒に遊びたいんだけど、何をしたいかな。

園児A じゃあ、外で鬼ごっこをしようよ。

園児B 私はお部屋でお絵描かきがしたいな。

園児C 外の方が楽しいよ。ボール遊びしようよ。

園児D 私もお部屋の中がいいな。

正広 今日は晴天で暖かいから、外で遊ぼうか。

園児A セイテンデ……？

園児D 外だったら、ブランコに乗りたいよ。

園児B 私もブランコならいいよ。

正広 ブランコも楽しそうだね。でもブランコは二つしかないから、みんなと一緒に遊ぶのは難しいかな。みんなと仲良くなりたいたいから、五人でできる遊びをしたいな。Dちゃん、どうしたらいいかな。

園児D 鬼ごっこならみんなまでできるよ。

正広 他にも鬼ごっこがしたいって言っていた子がいたよね。

園児A 僕だよ。鬼ごっこをしよう。

園児C じゃあ、僕も鬼ごっこでいいよ。早くいこうよ。

正広 よし、それじゃあみんな一緒に、外で鬼ごっこをしよう。

【場面3 延長室にて】

園長 今日の活動はどうでしたか。

正広 園児の意見をまとめるのは難しかったです、みんなが仲良く鬼ごっこができてよかったです。

園長 そうですね。ただ、遊び始めるまでは、Bちゃんは少し寂しそうな様子でしたね。

正広 えっ。あ、そうか。Bちゃんに確認のため、「X」と聞いてあげればよかったです。悪いことをしたな。

園長 Bちゃんも笑顔で鬼ごっこをしていたから大丈夫でしょう。念のため、あとで私が声をかけておきますね。

① 「晴天で」とあるが、この表現は園児Aにうまく伝わらなかった。これを園児にとってわかりやすい表現に改めるとき、適切な言葉を【暖かいから】に続くように五字以内で書きなさい。

② ……の部分の正広さんの発言について説明したものととして最も適当なのはア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 相手の意向に配慮しつつ、具体的な事実を挙げて希望を伝えている。

イ 相手の希望を聞き入れて、それに添った新しい案を説明している。

ウ 相手の発言の真意を理解できないまま、根拠を示して反論している。

エ 相手の意見を受け止めて、譲歩した上で目的を聞き出している。

③ 「X」について、正広さんは園長先生との会話の中で反省点に気づいた。【場面1】～【場面3】における会話の内容を踏まえて、「X」に入れるのに適切なことばを、十字以内で書きなさい。

問題3 次の文章は、范成大の漢詩「夏日田園雜興」の一節とその解説文である。これを読んで①～④に答えなさい。

夏日田園雜興

梅子金黃杏子肥 梅子は金黃にして杏子は肥え

麦花雪白菜花稀 菜花は雪白にして菜花は稀なり

日長籬落<sup>⑥</sup>無人過 日長くして籬落人の過ぎる無く

惟有蜻蜓蛺蝶飛 惟だ蜻蜓蛺蝶の飛ぶ有り。

梅の身は金色に熟れ、杏の実も大きくなった

麦の花は<sup>⑥</sup>雪のように白く、菜の花がまばらに残っている

夏の日は長く、垣根のそばを通る人もいない

ただトンボと、アゲハチョウだけが飛んでいる。

ここに取上げた絶句は「夏日田園雜興」の第一首目にあたり、初夏の風物を詠った作品です。

前半の二句は綺麗な対句仕立てで構成されており、わずか十四字の中に「<sup>①</sup>X」<sup>②</sup>「雪白」「杏子肥(青)」「菜花(黄色)」というように色彩を表す詩語が四つも入っています。美しい色彩の対比は杜甫の「江碧にして鳥逾白く、山青くして花燃えんと欲す」で始まる「絶句」詩を思い起こさせます。しかも、「梅子」と「杏子」、「麦花」と「菜花」を対比させ、晩春から初夏への移り変わりを鮮明に描きだしています。

後半の二句にも田園のどかな風景が詠み込まれています。日本的な感覚でいうと、初夏は少し汗ばむほどの陽気ですが、蘇州郊外の初夏はべっとり汗をかかほどに暑いのです。ですから、昼下がりに人は人の通りも途絶えてしまし、トンボとアゲハチョウだけが静かに、音もなく飛び回っているのです。この小動物を画面に描きだしたことが静寂さを際立たせています。なにげない表現の中に、深い味わいが含まれているのです。

この後半の二句は、杜甫が「花を穿つ蛺蝶深深として見え 水に点するの蜻蜓款款として飛ぶ」と詠う「曲江」詩を意識してつくったものと思われます。

ゆつたりと動く時の流れの中にある江南地方のどかな田園風景が、巧みに詠われています。

〈2017年岡山 第2問 出典 渡辺英喜「心にとどく漢詩百人一首」〉

(注) 范成大—中国の何宋時代の詩人。

絶句—漢詩形の一つ。

蘇州—中国の江南地方の都市名。

「花を穿つ……飛ぶ」

—杜甫の詩の一節。「花のあいだを行く蝶が奥深くもぐりこんでいるのが見える 水面に尾をつけるとんぼたちがゆるやかに飛びまわっている」という意。

① 「<sup>①</sup>X」に入れるのに適当なことを、范成大の漢詩から漢字二字で抜き出して書きなさい。

② 「<sup>⑥</sup>無人過」とあるが、このような状態になる理由について説明した次の文の「<sup>①</sup>」に入れるのに適当なことを、解説文から十五字以内で抜き出して書きなさい。

夏の昼間は長くて、「<sup>①</sup>」から。

③ 「<sup>⑥</sup>雪のように白く」とあるが、この部分で使われている表現技法は、<sup>ア</sup>～<sup>エ</sup>のうちではどれですか。一つ答えなさい。

<sup>ア</sup> 直喩 <sup>イ</sup> 隠喩 <sup>ウ</sup> 擬人法 <sup>エ</sup> 倒置

④ 范成大の漢詩で描写されているものとして最も適当なのは、<sup>ア</sup>～<sup>エ</sup>のうちではどれですか。一つ答えなさい。

<sup>ア</sup> 自然の雄大さと気さくな農村の人々、穏やかな初夏の田園風景。

<sup>イ</sup> 季節の鮮明さと蘇州郊外の活気、爽やかな初夏の田園風景。

<sup>ウ</sup> 果実の豊かさとお動物の尊い営み、にぎやかな初夏の田園風景。

<sup>エ</sup> 色彩の美しさと季節の移り変わり、のどかな初夏の田園風景。

## 第4日

## 問題1

次の文章は、清陰高校バレーボール部主将の「小田」が、校内球技大会の終了後、一年生の「灰島」と会話をする場面である。「小田」は、能力の高い「灰島」をぜひ入部させたいと考えていたが、「灰島」は、中学生のとき他の部員たちとの関係が上手くいかなかった経緯から、「小田」の誘いを拒否していた。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

体育館はがらんとしていたが、試合が行われていたステージ側コートにだけネットとボールがまだ残っていた。<sup>①</sup>まるでネットだけがまだ試合が終わったことを認めるまいとしているかのように。コートを包んでいた決戦の熱気も今はもう夕方の空気に冷やされて、急に物寂しく感じられた。

ネットの前に立っている人影があった。目の前のネットと同じくまだ試合が続けたがっているみたいに、身体の横におろした両手のテーピングはまだ解いていない。

灰島は顎を持ち上げてまっすぐな眼差しをネットの白帯に向けていた。窓から射す陽も弱まって屋内はだいぶ薄暗くなっていたが、瞳の中には光が見えた。物足りなさを抑えきれないような、灰島自身の内に滾るぎらぎらした光が。

「部の打ちあげで、六時半に校門に集合な。三年の奢りやで安心しろ」

「おれを数に入れないでください」

迷惑そうに言い返された。小田は溜め息をつく。こんなにもわかりやすくバレーがやりたくてたまらないという渴望を放出しているくせに、いったいながこいつの中のブレーキになっているのか。基本的に「A」でヒトの気持ちなど意にも介さなような奴が、なにかが起ることをあきらかに怖がっている。

「なあ……バレーっっちゃうんはほんと人と人を選ぶスポーツやな。一人じゃボールを運べん競技やで、一人が上手かっても勝てん。対格差に露骨に泣かされるっっちゃうんもある。残酷な話やろ、おれみたいな奴がどんなに努力したかって……身長っていう、その一つの要素で、やっぱりでかい奴には勝てん。よりにもよってなんでバレーに嵌っちゃってもたんやろうなあ、おれ」

嫌というほど人から浴びせられた言葉を自分で口にした。人に説明したところで今ひとつ共感してもらえず微妙な顔をされるので、最近ではもうその手の話は聞き流すようになっていた。

灰島は答えを悩まなかった。変なことを訊くなこの人はどうもいうように小首をかしげて、言い切った。

「バレーより面白いものなんて、他にないじゃないですか」

⑥ ああ……やっぱり。

こいつなら言ってくれるような気がしたんだ。おれたちにとってのごくシンプルな、世の中の真理を。

自分以外の誰かの言葉が欲しかった。おれなんかでも夢中になっていいものなんだって、誰かに肯定してもらいたかった。おれよりもずっと才能があつて、もしかしたらおれ以上にバレーが好きなの男に、そう言ってもらえたら、おれがバレーに捧げてきた時間は決して無駄ではなかったと信じられる。

世の中にこれほど面白いものが、熱くなれるものがあるだろうか。スパイクを豪快に放ったときの爽快感を。仲間全員で粘り抜いてラリーをもぎ取ったときの達成感を。集中力が極まって、チームの心が一つになったとき、ボールの軌跡が途切れな一本の線として鮮明に見える、あの、最高の陶酔を……。

喉もとに熱いものがこみあげて、ふと泣きたくなる。だが、泣くのは早い。まだなにも成し遂げていない。

だからかわりに歯を見せて笑った。

「おれなあ、バレーが死ぬほど好きなんや。これだけは誰にも負けん自信あるぞ」

灰島がくそ真面目が顔で、

「おれも負けません」

と対抗してきたのがおかしかった。

「……灰島。おまえに入って欲しいんはおれの都合や。おれはもう三年や。一試合でも多くコートでプレーしたい。一日でも長く……。一分でも、一秒でも長く、バレーをしたいんや。そのためにおまえの力を借りることはできんか？おまえの、全力を……」

こんな言い方では逆効果だろうか？いや、大丈夫だ。この言葉は灰島に壁を作らせるものではないはずだ。こいつはどうやら自分に対しても他人に対しても恐ろしくストイックだが、本気でバレーと向きあっている者を拒絶することはない。バレーに本気か本気じゃないかー灰島の線引きはたったそれだけなのだ。

だから踏み込むのをためらう理由はない。ドアの鍵はおれが持っている。

④ 本当に右手の中に小さな鍵を握り込んでいる感覚があった。手のひらを開くともちろん実際には鍵は載っていない。けれどそれを見せるように灰島に向かって差し出した。

「おれを信じてくれんか、灰島」

伏し目がちに小田の手を見つめたまま、灰島はしばらく黙っていた。引き結ばれていた唇がほどけ、

「……春高」

と、ぼそつと声が漏れた。

「……本気で行く気なんですよ。県内でまともに戦ったこともない弱小チームが、本気で行けると思っただけで目指してるんですよ。二・四三のネットは、そのためなんですよね」

⑤ 目の前のものを全て刺し貫くような鋭さをもった瞳が、ひたと小田の顔に向けられる。一週間前に小田がちらっとしたたけの話が灰島の中にずっと残っていたらしいことに驚いた。が、それだけ強い思いがあることに納得もした。

バカにしているような言い方ではなかった。逆にこつちがほんのちよつとでも茶化したり、答えを⑥曖昧にしたら間違いない。即座に手をはたき落とす気だ。

こいつの前ではごまかしも、なまぬるい本気も許されない。

「ああ。これで役者は揃った。今年の清陰は必ず全国に行けるチームになって、おれは本気で思ってる」

⑧ 小田もまた射ぬくような灰島の目を見つめ返して答えた。

この手を取ってくれるなら、おれもまた全力で応えねばならないだろう。その覚悟が伝わるようにもう一度力強く繰り返す。難しい理屈は必要ない。きつとこいつの心には、まっすぐなことばだけが届く。

「おれを信じて欲しい。お前の全力を、貸してくれ」

〈2020年岡山 第1問 出典 壁井ユカコ〉2. 43 清陰高校男子バレー部

(注) テーピングがけがの予防や治療のために、関節、筋肉などにテープを巻くこと。

努力したかって―「努力したとしても」という意味の方言。

嵌ってもたんやろなあ―「嵌ってしまったのだからなあ」という意味の方言。

スパイク―見方がネットぎわに打ち上げたボールを、ジャンプして相手方に強く打ち込む攻撃法。

ラリー―相手方との打ち合いが続く状態。

ストイック―欲望に流されず、厳しく身を律する様子。

春高―全日本バレーボール高等学校選手権大会の愛称。「春高バレー」とも呼ばれる。

二・四三―バレーボール競技のネットの高さ。高等学校男子の全国大会では、二・四三メートルの高さのネットが使用される。地方

大会や練習等では、二・四〇メートルが使用される場合もあるが、清陰高校は普段の練習でも二・四三メートルを使用している。

① 傍線部③、④の漢字の読みを書きなさい。

② 「A」に入れることばとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 公明正大    イ 優柔不断    ウ 傍若無人    エ 温厚篤実

③ 「まるで……かのように」とあるが、この部分の表現について説明した文の「X」に入れる表現技法として最も適当でないのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。また、「Y」に入れるのに適当なことばを、文章中から十四字で抜き出して書きなさい。

この部分には「X」が用いられており、体育館に残されたネットと、その前に立つ灰島の姿が重ねられることよって、灰島の「Y」という気持ちが強調されている。

ア 隠喩法    イ 擬人法    ウ 倒置法    エ 対句法

④ 「ああ……やっばり」とあるが、ここからわかる「小田」の心情を説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 灰島の小首をかしげるしぐさにより、自分の気持ちが少しも伝わっていないという事実を突きつけられたことへの怒りと落胆。

イ 灰島が見事に言い当てた世の中の真理により、身長の高い自分がバレーを続けてきた理由に気づかされたことへの驚きと感謝。

ウ 灰島の迷いのないことにより、バレーが好きですべてをかけて打ち込んできた自分を肯定してもらえたことへの安堵



と喜び。  
 エ 灰島が自分と同じ思いを抱いていると知ったことにより、自分の後を託すに足る人物だという確信を得たことへの感謝と満足。

⑤ 「④「③「②「①」に……」とあるが、「小田」がこのように思った理由を説明した次の文の「①」に入れるのに適切なことをばを、三十五字以内で書きなさい。

バレーのことになる自分自身にも他人にも厳しい灰島に対してだからこそ、「①」という手ごたえを感じているから。

⑥ 「⑥「⑤「④「③」の……」とあるが、このときの「灰島」と「小田」の様子について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

**ア** 灰島は、小田のバレーボールに対する熱意を確認しようとしており、小田は、灰島の生意気な態度に怒りを感じながらもチームのために我慢して説得しようとしている。

**イ** 灰島は、弱小チームなのに全国大会を目指すという小田の考えの甘さに疑問を投げかけ、小田は、自分が本気だということを示そうとして同じことばを繰り返している。

**ウ** 灰島は、小田に本気で全国を目指す気があるのかを聞いたかそうとしており、小田は、自分のことばを灰島が覚えていたことに動揺しながらもそれを隠そうとしている。

**エ** 灰島は、全国大会を目指すために自分のことが必要だという小田の覚悟を確かめようとしており、小田は、それに対して一歩もひくことなく強い思いで向き合っている。

## 問題2

次の文章は、高校一年生の「倉田舞衣子」と同級生の「美鶴」が会話をしている場面である。二人は乗馬クラブの指導員でもある「彩子さん」に連れられ、外乗（山や森の中を馬と散策する事）に出かけている。「舞衣子」は小学生の時に流鏑馬（馬に乗って走りながら的を射る競技）の大会で優勝した経験があり、「彩子さん」はその当時、「舞衣子」のコーチであった。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

「……私、馬に乗るのが怖いんだ」

そんな言葉が口をついて出た。

「小学生のころ落馬したって話は学校でしたよね。あのとき、私が乗っていた馬もケガをしたんだ」  
「うん」

「人間だったら、脚の骨を折ったって、手術して、リハビリすれば治るでしょ？私も大けがはしたけど、いまは普通に運動できるし。でも馬はそうじゃないんだ。脚のケガは、イコール命に関わる。それから炎症を起こしたときの痛みや苦しさも相当なんだって」

落馬したときのことを、舞衣子は無理に忘れようとしていた。半面、それはララに対する裏切りのような気もしていた。せめてもの①償いは、ほかの馬に乗らない事。舞衣子にとって、ララが唯一無二のパートナーだ。それを証明するための、誓いみたいなものだった。②だから今回の外乗も、馬に乗ることだけは頑なに拒否した。

「さっきナナっていう馬がいたでしょ？あの子、前に私が乗ってたララに③そっくりなんだ。大きさは少し違うけど、顔とか脚の模様が同じで、見るたびに懐かしくて、それから苦しくて。ほかの馬には心が動かなかったけど、ナナはどうしても気になってしまう。でも、心の中にいるララが、『その馬は私じゃないよ』と訴えてくるんだ」

ふたりのあいだに、④沈黙が流れた。ひとすじの風が吹き、草を舞いあがらせた。木の枝が、ざわざわと揺れる。

「ごめんね。学校で、事情も知らないで『流鏑馬やろう』なんて気軽に言っちゃって」

神妙な顔で言う美鶴に、舞衣子は笑ってみせた。

心の中に溜まっていた澱が、ゆっくりと溶けていく。

流れていく雲を見ながら、舞衣子は思った。ララのこと、過去の栄光も、いまの自分を作っている歴史のひとつなのかもしれない。

しばらくすると、どこかの放送塔から昼の十二時を知らせるメロディが流れてきた。ムサシから降りた隼人が、彩子さんと一緒にこっちにやってくる。

「舞衣子ちゃん、ナナに乗っていつてくれる？」

「え、ナナですか？」

舞衣子はドキリとする、

「引いていつてくれてもいいんだけど、歩くより乗ったほうが楽でしょ。私も隼人くんと一緒にムサシに乗るから」

すると美鶴が「乗せてもらえばいいじゃん」と舞衣子の背中を押した。

「きつとララは、倉田さんに『ナナになら乗ってもいいよ』って言ってってくれる気がする。私がこうして流鏑馬を始めたのも、乗馬クラブで倉田さんがアルバイトを始めたのも、タイミングよくララに似たナナがここにいたのも、すべて運命のめぐりあわせなんだよ」

すると彩子さんが、「⑤そうだね。運命かもしれないね」と美鶴の言葉を補足するように言った。

「ナナはね、まえに舞衣子ちゃんが乗っていたララの姉妹なんだよ」

「ララの姉妹？」

舞衣子が驚いて問い返すと、彩子さんは「うん、ララとナナは、母馬が同じなんだ」と答えた。

「しばらく北海道の牧場にいたんだけど、戻ってこさせたの。ナナにとってもこっちで過ごすのがいいと思って」

彩子さんが、ナナがこっちで過ごすほうがいいと思っただ理由。それは舞衣子にも心あたりがあった。

あたたかな筋肉。脈動する肌。やさしい瞳。人間に甘える素直さ。

でもよく見ると、ナナの右の太腿には、うつすらとしか毛が生えていない箇所があった。ブラッシングするときも、ナナはその部分を触られるのを嫌がった。ずっと昔、ひどいケガを負ったのだろう。

舞衣子はハツとした。これは鞭の痕だ。

馬を飼育している牧場は限られている。だから祭りや神事、流鏑馬競技や体験乗馬のときは、牧場の馬を貸すことも少なくない。ただ、乗り手が馬の扱いに慣れていないとは限らないから、故意にはなくても傷つけられてしまうことがある。

舞衣子の曇った顔を見て、彩子さんは微笑んだ。

「でも、ナナは頭がいいし頑張り屋だからね。怖い目にあっても、こうして人を信頼してくれる、とってもいい子だよ。だか

ら私は、この子に人間との絆を取り戻させたい。流鏑馬用の馬にしようと思ったのも、そのためなんだ。自分は特別だ。そう信じていることが、馬にとっても人にとっても大切なことだから」

彩子さんは舞衣子の肩とナナの肩を順番に叩き、「とりあえず、腹減ったからさっさと山を下りるよ」と言った。彩子さんと美鶴から背中を押され、外乗の復路で舞衣子はナナに乗ることにした。

大きな体。歩みを進めるたびに感じる振動。久しぶりに馬に乗ったけれど、舞衣子の脚は鞍にしっくり馴染んだ。広場からの帰りは、ずっと下り坂が続いていた。きちんと整地されていない林道であったが、馬たちは安定した足取りで歩いてくれる。はじめてクラブに来た時の興奮した様子から想像できないほど、ナナは落ち着いて堂々としていた。

馬にはもう乗らない。流鏑馬なんて絶対に無理だ。そう頑なに思っていた。④けれどいまは、気持ちが揺れている。自分ができること。それがなにか、舞衣子にはわかりかけていた。

〈2019年岡山 第1問 出典 相戸結衣「流鏑馬ガール！ 青森県立一本杉高校、一射必中！」〉

(注) ララ、ナナ、ムサシーいずれも馬の名前

瀧―液体にしずんだかす。ここでは心の底にたまったものたえ。

単人―「美鶴」の弟。

鞍―馬の背に置いて人を乗せる道具。

① 傍線部③、④の漢字の読みを書きなさい。

② 「⑥そっくりなんだ」とあるが、これと同じような意味で使うことができることはとして適当なのは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

ア 名を連ねている    イ 瓜二つである    ウ 馬が合っている

エ 生き写しだ    オ 匹敵する

③ 「⑥だから今回の……頑なに拒否した」とあるが、この理由を説明した次の文の「X」、「Y」に入れるのに適当なとばを、「X」は八字、「Y」は三字で、それぞれ文章中から抜き出して書きなさい。

舞衣子は、「X」と感じており、そのきつかけとなった過去の落馬のことを忘れたいが、それはララへの「Y」であるような気がして、せめてほかの馬には乗るまいと決めていたから。

④ 「⑥そうだね。運命かもしれないね」とあるが、「彩子さん」がこのように言った理由を説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア ナナがララと同じ母馬から生まれたことに気づかない舞衣子にもどかしさを感じ、事実をすべて打ち明けようとしたから。

イ すべては運命だと言ってくれる美鶴の優しい気遣いに対して、まだ煮え切らないでいる舞衣子をたしなめようとしたから。

ウ ナナがララの姉妹であると伝え、舞衣子と同じくナナにも過去につらい経験があることに意識を向けさせようとしたから。

エ 過去の落馬事故があったから、ララの姉妹であるナナにここで出会えたのだということを舞衣子に教え諭そうとしたから。

⑤ 「④けれどいまは、気持ちが揺れている」とあるが、このときの「舞衣子」の心情について説明した次の文の「」に入れるのに適当なとばを、三十五字以内で書きなさい。

馬にはもう乗らないと決めていたが、美鶴や彩子さんと会話したこと、そして、ナナの「」に「姿に触れたことによって、自分も過去を乗り越えて、もう一度流鏑馬をやってみよと思いはじめている。

⑥ この文章の表現の特徴とそのねらいについて説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 舞衣子と美鶴との会話の場面では、枝の揺れや流れる雲などの情景描写により、変化しつつある舞衣子の心情を暗示している。

イ 彩子さんがナナのことを語る場面では、ララの回想を挿入することにより、過去にとらわれ続ける舞衣子の様子を描いている。

ウ ナナに乗るよう舞衣子が促される場面では、複数の人物の視点から語ることににより、舞衣子の頑なな姿を浮き彫りにしている。

エ 舞衣子がナナに乗る場面では、馬の様子や感触を描写することにより、ララとの思い出をかみしめていることを印象付けている。

**問題3** 次の文章は、西行（平安時代末期の歌僧）の和歌とその解説文である。これを読んで①～④に答えなさい。

西行は桜の花の美しさの抵抗しがたい力をくり返し歌にした。次の歌もその一つである。

あくがるゝ心はさてもやまぎくら 散りなんのちや身に<sup>㉔</sup>帰るべき（山家集）

桜が咲いているあいだは、心が身からあくがれでてしまつて、なんともどめることができない、しかし散つてしまえば、わが身へと帰つてくるだろうか、という意味である。「あくがれる」というのは、もともとこの「<sup>㉔</sup>あくがる」という言葉からきたもので、「所、事」を意味する「あく」という言葉と、「㉔」の意味の「カル」という言葉が結びついてきたものである（『岩波古語辞典』）。したがつて、もともとは、「本来あるはずの場所から離れる」という意味の言葉であった。さまよい歩くという意味でもあるが、魂が身から離れてしまうことでもある。したがつて「浮かびあがる」ことだと言ってもよい。西行は桜に強大な浮力を感じたのである。

短歌に限らず、広く詩一般を考え、「詩人とは何か」と問うたとき、それにこたえることはもちろん容易ではないであろうが、一つの答えとして、普通の人よりも大きなイマジネーションの力を持ち、強い憧憬を抱いてその世界により深く浸ることのできる人、そして現実を離れ、高く「浮かびあがる」ことのできる人である、というものが考えられる。西行の場合には、その浮力がきわめて強かったこと、一度浮かびあがつた心がわが身のもとに帰るだろうか、と問うたほどに強いものであったことを指摘することができる。そのあらがいがたい力が、同時にそれを表現したいという衝迫を西行のなかに生んだのではないのだろうか。信仰の途を歩みながら、内から突きあげてくるものを言葉にせざるをえなかったのであろう。そういう意味で西行は天性の詩人であったと言えるのではないだろうか。

（2018年岡山 第3問 出典 藤田正勝「日本文化をよむ 5つのキーワード」岩波新書）

（注）イマジネーション—想像。

憧憬—あこがれること。

衝迫—人の心や感覚をつきうごかすこと。

① 「<sup>㉔</sup>帰る」の主語に当たる語を、和歌の中から一語で抜き出して書きなさい。

② 「<sup>㉔</sup>あくがる」とあるが、これについて筆者が辞書の記載を用いて説明した意図として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 散り際の桜のはかなさを、歴史的事実を踏まえて解説するため。

イ 和歌に用いられた表現の誤りを、資料によって論証するため。

ウ 桜を慈しむ西行の様子を、芸術的な視点で提示するため。

エ 和歌に表れた西行の真理を、根拠に基づいて説明するため。

③ 「㉔」に入れるのに適当なことを、解説文から三字で抜き出して書きなさい。

④ 次は、この文章を読んだ中学生が書いた、西行の和歌についての感想文である。「X」「Y」に入れるのに適当なことを、「X」は二字、「Y」は五字で、それぞれ解説文から抜き出して書きなさい。

和歌からは、西行が桜の美に強い憧憬を抱いていたことが伝わってきた。筆者は、「X」の強さとそれに伴う表現した気持ちの強さに動かされて言葉にした西行を、「Y」であったとしている。西行の切実な言葉だからこそ私の心に響いたのだと思う。

## 第5日

問題1 次の文章は、哲学者の串田孫一（一九一五～二〇〇五）が一九五五に書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

詩人の尾崎喜八さんが、昔、植物学者の牧野富太郎をかこむ植物壮行会の人々と採集に行かれた時の文章に次のような個所があります。それは、先生、これは何と申しますかと、次々に訊ねられる時牧野博士はそれをたちどころに説明されることなのですが、続いて次のような文章があります。「先生が日本の植物に対して百の名称を断ぜられるとしても、僕はただ先生の記憶の強大さ、知識の広さに驚くだけである。しかし一人の可憐な小学生が、何か小指の先ほどの植物を探して来て『先生これ何ですか』と訊いた時、『これは松』といいながら、その子の頭へ片手を乗せられた時の、あの温顔の美しさを僕は忘れない」

私はこの一節が非常に好きなのです。そこには、知るということ、そのための人間同志に通う暖かいものが感じられます。ただ人間としてこれだけのものは知って置かなければならない、そういう気持で本を読んだり、学校へ通って勉強をする、それも確かに必要なことなのですが、そこで、もし一方は教える他方はそれを教わるという関係だけならば、<sup>⑤</sup>それは全く機械的なものになって、遂には試験のために勉強をするという現象も生まれて、知ることによって快さや喜びが伴って来るような、極く素朴な<sup>⑥</sup>スガタがあまり見られなくなってしまう。自分の知らないことでも、もう誰かは必ず知っている、大概のことは本に書いてあると思ってしまう、特に知ろうとしないのです。さまざまの事典と名のつく本が出ることは、それに誤りが限り実ありがたいことなのですが、これだけ持っていれば必要な時にその知識をそこから引き出せるという考え、これは案外恐ろしいことではないかと思えます。

知ることと、知らされることの違いを考えてみて頂きたいのです。私は、知るということの中には、知りたいという意欲がはつきりとしている場合を考えています。これだけのことを知っていないと笑われるとか、現代人としての常識に欠けているといわれそうな、ただそのために知るのであれば、外部からの強制的な力によって知ることを努力しているに過ぎません。そういう人は自分はどうでもよいのです。それでも全くの無関心な状態に比べればいいでしょうけれども、しかしそうして知識を得る時には喜びはなくてむしろ苦しみがあるばかりだと思えます。それよりもっと恐ろしいことは、知っている振りをするために、なるべく苦勞の少ない手段を選んで、知った振りをするのに必要な知識だけを用意して置こうという態度です。私の知っている若い方々の中には、話をしていると実に博識だと思われる人がいます。文学についても、美術や演芸その他の芸術についても、政治についても国際情勢についても実によく知っているように見えるのです。そして知っているだけでなしに、それらに対して<sup>⑦</sup>ヒビヨウもしますし、またそれに対する自分の立場もあるらしく見受けられるので、話をきいてみると、私などは少し恐ろしくなってきました。けれども少しこちらが意地悪く訊ねかえしてみるとか、もう少し<sup>⑧</sup>詳しい説明を求めたりしますと、ところどころあやしいことが出てきます。つまり、それらの沢山の知識の大部分はいわば借物だったのです。知識だけでなく、それらの人の使う言葉の多くが借物だったのです。それは特に学術的な用語、あるいは哲学用語といえるような単語の場合、芽だつて感じられます。この<sup>⑨</sup>知識の借物ということはなかなか魅力のあることでありまして、はでな衣裳を着て自分を飾ることと少しも変わりありません。しかしそれは、至極便利なダイジェスト式の本が出ていますと、比較的時間もお金もかからずに出来ることで、これもまた、悪く利用しますとかなり危険なものだといえます。この借物の知識でも自分の身を飾る魅力というのは、恐らく人間の心の中に根強く巣を造っている自尊心、虚栄の心によるものと思われれます。ブレイズ・パスカルがこの虚栄心についていった有名な言葉をここに引かせて頂くことにします。

「虚栄は人間の心に深く喰い込んでいるので、兵士も従卒も料理人も、それぞれ自慢して自分の<sup>⑩</sup>崇拜者を得ようとする。哲学者さえ同じことを望む。栄誉を否定する論者も、よく論じたという栄誉は得たいと願う。またそれを読む人も、それを読んだという栄誉を得ようとする。そしてこれを書いている私も、恐らく同じ欲望を持っているだろう。また恐らくこれを読む人も……」

虚栄のための知識、あるいは自分の身を飾るための知識は、いざとなったら何の役にも立たないということをご思い切つて申しあげまして、本当に知りたいと思うことを改めて考えて頂きたいのであります。大きなことでも小さなことでも、<sup>⑪</sup>具体的な現実の問題でも、<sup>⑫</sup>抽象的なことでもそれは構いません。もしそういうことがあつて真剣にそれを知ろうとして獲得することの出来たものなら、それはたとえ本から得たものでありましようとも、あるいは幼い子供から教えられたものでありましようとも、必ず自分のものになって、それが素朴な要求であればこそ喜びを伴い、またそれが今すぐに役に立たないものであるにしても、いつかは必ず、形をかえて自分の成長に役立ったというはつきりした証拠を見せてくれるにちがいません。

〈2018年岡山 第1問 出典 串田孫一「考えることについて」徳間書店〉

（注） 断ずる―判断を下す。

温顔―優しく穏やかな顔つき。

ダイジェスト―著作物などの内容を要約すること。  
ブレイズ・パスカル―フランスの哲学者・数学者・物理学者。  
従卒―兵士につき従って身のまわりの世話をする者。

① 傍線部⑥、◎を感じに直して楷書で書きなさい。また、傍線部④、①の漢字の読みを書きなさい。

② 「<sup>⑥</sup>それは……になって」とあるが、この部分について説明した次の文の「X」「Y」に入れるのに適切なことばを、「X」は十字、「Y」は三字で、それぞれ文章中から抜き出して書きなさい。

知ることが、「X」によって知識を身に付ける行為になり、人間同志に「Y」ものが通うこともなく、素朴な様子も見られなくなる。

③ 「<sup>◎</sup>知識の……ありまして」とあるが、筆者がこのように述べる理由について説明した次の文の「          」に入れるのに適切なことばを、四十字以内で書きなさい。

知識を借りてくることによって、「          」ことができるから。

④ 「<sup>④</sup>「具体」と「抽象」の意味における関係と同じ関係にある語の組み合わせは、ア〜オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

ア 創造 ― 模倣    イ 一般 ― 普遍    ウ 促進 ― 抑制  
エ 計算 ― 勘定    オ 熱中 ― 没頭

⑤ 「知ること」とあるが、これについて説明したものとして最も適当なのは、ア〜エのうちではどれですか。文章全体を踏まえて、一つ答えなさい。

ア 「知ること」とは、本や事典を活用して必要な知識とそうでない知識を主観的に取捨選択することであり、選び取った本物の知識は、自我の形成につながるものである。

イ 「知ること」とは、知りたいという意欲をもって真剣に知ろうとすることであり、そこで獲得の喜びを伴って得た真の知識は、自身の成長の助けとなるものである。

ウ 「知ること」とは、教える側と教わる側の交流で知識が伝わることであり、自ら望んで得た知識は、内容にかかわらず、人生に大きな榮譽をもたらすものである。

エ 「知ること」とは、自身の意思とは関係なく、世間の常識や社会的要請を意識して勉強することであり、修得した豊富な知識は、人格を磨くために役立つものである。

⑥ この文章の表現の特色とそのねらいを説明したものとして適当でないのは、ア〜エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 筆者にとって印象的な文章を提示することで、後に続く主張への理解を深めるきつかにしようとしている。

イ 筆者が経験した出来事を例示することで、「知ること」に関する問題意識をわかりやすく伝えようとしている。

ウ 学者が残した有名な言葉を引用することで、「知ること」についての自らの見解を補強しようとしている。

エ 対比構造で論点の違いを鮮明にすることで、それぞれの考えの優れた点について言及しようとしている。

## 問題2

次の文章は、中学一年生の「正太郎」が、「母」と昼食をとっている場面である。水泳選手だった「父」に導かれて習い始めた水泳を一年でやめ、その後水泳を避けてきた「正太郎」は、この日、「母」に道案内を頼まれ、妹である「真琴」の水泳合同練習会に仕方なく同行していた。これを読んで、①～⑤に答えなさい。

「最近、いつお父さんと話した？」

と母が言った。

「……おはようくらいなら、毎日言ってるけど」

「正太郎、お父さんのこと、きらい？」

言葉に詰まる。

そして母は、

「正太郎が、真琴のこと、素直に応援できない気持ち、お母さんにはわかる」

と言った。

④母は今日、僕を道案内のために連れてきたわけではないのだ。

「……母さん、メダルのこと、気づいてる？」

それは、声に出して言った言葉なのか、心の中だけで言った言葉なのか、自分でもわからなかった。

母は眉尻を少し下げて、困ったような顔をした。たぶん、僕は、声に出して言ったんだ。

僕はもう一度、言い直した。

「僕が真琴の部屋からメダル盗んだこと、気づいてる？」

母はその質問には答えず、

「お母さんは、正太郎が、好きなことをやってくれたら、それでいいと思う」

と言った。

僕はなんと言ったらいいかわからなくて、何目かのオムライスを口に運んだ。卵はふわふわではなく薄いやつで、ケチャップの味が強くする。

母さんは、僕がメダルを真琴の部屋から持ち出したことを知っているのだ。母さんだけじゃない。真琴だってAきつと知っているのだ。あのメダルは、真琴の努力の証だ。努力して取った大事なメダルがなくなって、気づかないはずがないだろう。

「なに泣いてるのよ」

「……ごめんなさい」

真つ赤なケチャップに、涙が垂れる。

ごめんなさい。ごめんなさい。

僕は、同じ言葉を繰り返しながら、オムライスを食べた。

「泣きながら食べたら、作ってくれた人に失礼じゃない」

と母は言った。

僕は、オムライスを、時間をかけて食べきった。

おばあさんがやってきて、温かい紅茶をテーブルに置き、おいしかった？と言った。おいしかったです、と僕は答えた。

店を出て、さらに一時間ほど街をドライブした。

午後、僕は母と並んで真琴の合同練習をプールサイドの端っこのほうで見学した。市民プールは、塩素のにおいがしたがこの世で、一番嫌いなにおい。

休憩時間になり、水泳帽を被った真琴は母と僕を発見して、ちゃんと見てた？また記録更新したんだよ！と言った。

「ごめん、二人でお昼食べてたら見逃しちゃった」

怒るかと思ったが、真琴は、バカー！と言っただけだった。いや、これでもちゃんと怒っているのか。

「またすぐに更新するでしょ。そのときはちゃんと見るから」

母の言葉に、真琴はうれしそうな顔をした。

笛が鳴って、真琴はコーチのもとへ走っていった。

「じゃ、最後にクロールね」

真琴はゴーグルをばちんと目にはめて、コーチの笛の合図で壁を蹴り、泳ぎ出した。

B初めて見る真琴の泳ぎは見事だった。しなやかで、力強くて、子供のころに見た父の泳ぎをミニサイズにしたみたい。僕にはできなかった、父みたいな泳ぎ。そう思うと、やはり胸がキリキリと痛んだ。Cでも僕は、ちゃんと最後まで真琴の泳ぎを見

真琴は、ひとかきごとに確実に速くなっていくのだろう。  
 僕だって、あるとき水泳をやめていなければ、真琴みたいに速くなれたのだろうか。  
 僕はいつか、真琴の泳ぎを、胸の痛みなしで、心の底から「がんばれ」と思いながら、見られるようになるのだろうか。  
 そう思いながら、僕は真琴のクロールを見ていた。  
 帰りの車内は静かだった。

母がバックミラーにちらりと目をやって言った。

「見てよ、あの寝顔」

真琴は、身体を斜めにして口を開け、上を向いて爆睡していた。水泳は、ものすごく体力を使うのだ。

「お父さんね、このまえ行つてたよ」

母がまた唐突に言った。

「……何を」

「正太郎に、どういうふうに接していいかわからないって」

「……」

「自分が無理矢理水泳をやらせて、つらい思いをさせたんじゃないかって。だから、正太郎がやることに關して、口を出すのはやめようって、正太郎が水泳やまたときに決めただって。でも、そんなの、口に出してくれないとわからないよね。お父さん、そういうの、へたくそなんだよ。だからいま、お母さんが代わりに言っちゃった。お父さんのこと、許してあげて。お父さんだって、お母さんと同じこと、正太郎に対して思ってるんだよ」

今日の母は、Dまるで友達みたいな口調で話す。

◎僕は、本当は、わかっていたのだ。

でも、途中であきらめた自分が情けなくて、僕のほうが、父と距離を置くようになったのだ。

いまからでも、僕たち親子は、笑って話したり、思っていることを伝えあったりできるだろうか。流れていく窓の外の景色に目をやりながら、僕はそんなことを考えた。

「できるよ、家族なんだから」

母は、僕の心が読めるみたいだ。

〈2018年岡山 出典 小嶋陽太郎「ぼくのとなりにきみ」〉

① の部分A～Dの語のうち、他の三つと品詞が異なるものはどれですか。一つ答えなさい。

② 「母は今日……ではないのだ」とあるが、このとき「正太郎」が理解した、「母」が「正太郎」と連れてきた意図として最も適当なのは、A～Eのうちではどれですか。一つ答えなさい。

A 真琴の応援を口実を外へ連れ出し、落ち込んでいた自分を元気づけようとしている。

I 真琴のメダルの話をきっかけに、真琴の泳ぎに対する自分の換装を聞こうとしている。

U 父や真琴のことを話題にして、自分とじっくり話し合う機会を持つようとしている。

E 父に反抗的な態度をとり続け素直に謝ろうとしない自分の、味方になろうとしている。

③ 「⑥でも僕は……泳ぎを見た」とあるが、このときの「正太郎」の心情を説明した次の文の「        」に入れるのに適当なことを、四十字以内で書きなさい。

真琴に対する罪悪感や見事な泳ぎへの嫉妬とともに、「        」を感じて胸を痛めながらも、逃げずに自分と向き合おうとしている。

④ 「僕は、本当は、わかっていたのだ」とあるが、ここでの「正太郎」について説明した次の文の「X」、「Y」に入れるのに適当なことを、「X」は二十字以内で書きなさい。また、「Y」は文章中から十五字以内で抜き出して書きなさい。

正太郎は、父が「X」ことを母の言葉によって確認し、自分が「Y」ことを認めている。

⑤ この文章の表現の特徴について説明したものとして**適当でない**のは、A～Eのうちではどれですか。一つ答えなさい。

A 泣きながら自分の過ちを認めたり、プールで見学したりするなど、正太郎が変化していく様子が段階的に描かれている。

I 帰りの社内の場面からは正太郎の回想となっていて、正太郎や家族のわだかまりがとけていく様子が重畳的に描かれている。

U 母の最後の言葉に倒置法が用いられていることにより、家族のきずなを信じる母の前向きな様子が印象的に描かれている。



工 正太郎の視点で語られているため母の思いは直接説明されないが、その言動から息子への優しさが伝わるように描かれている。

**問題3** 次の文章は、清少納言『枕草子』の一節について、原文を引用しつつ書かれた解説文である。原文は、清少納言が中宮定子に仕えるようになって間もないころを回想して書かれた部分で、定子のもとに兄の藤原伊周が訪ねてきた場面である。これを読んで、①～④に答えなさい。

大納言殿のまゐりたまへるなりけり。御直衣、指貫きの紫の色、雪に映えていみじうをかし。柱基に<sup>㉑</sup>ゐたまひて、「昨日今日、物忌みはべりつれど、雪のいたく降りはべりつれば、おぼつかなきになむ」と申したまふ。

「道もなし」と思ひつるに、いかで」とぞ御いらへある。うち笑ひたまいて、「あはれ」ともや、御覽ずるとて」などのたまふ御有様ども、「これより、何事かはまさらむ。

物語に、いみじう口にまかせていひたるに、たがはざめり」とおぼゆ。

現れたのは、定子の兄君、権大納言藤原伊周であった。御年二十歳。貴族の普段着である直衣と指貫の紫色が真っ白な雪に映えて、なんとも言えないすばらしさ。大納言は柱のもとにおすわりになって、宮さまにおっしゃる。

「昨日今日、私は物忌(外出や接客をつつしんで家にこもる日)でございましたが、雪がずいぶん降りましたので、宮のことが心配で……」

「『道もない』と書いていましたのに。よくまあいらつしゃいましたこと」

「『感心な者よ』と、ごらんくださるかと思ひましてね」

この会話、このご様子。「これ以上すばらしいことがあるかしら。物語の中で口からでまかせに飾り立てて書かれている主人公たちとそっくりだわ」と、清女は思う。

この場面のお二人の会話は、実は教養がある。『拾遺集』東部の平兼盛の歌。

山里は 雪降り積みて 道もなし 今日来む人を あはれとは見む

山里は雪に埋もれて道もないのに、わざわざ、今日訪ねてくれた人の心をしみじみうれいと思う、という意味。歌の上句の「道もなし」を宮は取り、下句の「あはれ」を伊周は取り、割りぜりふのように、みごとに呼応させてみたのである。

清女は息をのむ思いだったろう。二つ違いの兄と妹。いづれ劣らぬ美男美女。情愛深い顔を見合わせ、さりげなく<sup>㉒</sup>極上の知的会話を愉しむ、その中宮のご風情ときたら。

〈2016年岡山 第2問 出典 清川妙「あなたを変える枕草子」〉

(注) 中宮―天皇の後。 権大納言―官職の一つ。

宮さま、宮―いづれも中宮定子。 清女―清少納言

① 「<sup>㉑</sup>ゐたまひて」の現代語訳に当たる部分を、解説文から抜き出して書きなさい。

② 「<sup>㉒</sup>道もない」とあるが、「道もない」状況になったのはなぜか。それがわかる部分を、『枕草子』の原文から十五字以内で抜き出して書きなさい。

③ 「<sup>㉓</sup>極上の知的会話」とあるが、これについて説明した次の文の「X」「Y」「Z」に入れるのに適当なことをばを、解説文からそれぞれ漢字二字で抜き出して書きなさい。

ここで言う「極上の知的会話」とは、妹の中宮定子がその場の状況に会う「X」を引用したことに対して、兄の藤原伊周が同じ若の「Y」を引用して呼応させるといふ、二人の「Z」に基づいて成り立つ会話のことである。

④ 『枕草子』は清少納言によって書かれた「随筆」と呼ばれる種類の作品であるが、これと同じ種類の作品は、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア おくのほそ道 イ 徒然草

ウ 平家物語 エ 万葉集